

# 多文化の風

Creation of a symbiotic society

関国際交流協会(☎54-0002)

思いやりの心で  
心の国境線ボーダーラインを越える

河内長野国際交流協会事務局長  
山本直嗣ただしさん

今回より新コラムがスタート(年3回)。様々な国の人が筆を取り、河内長野市に思いをはせながら、国際交流・多文化共生の新しい風を吹かせます。

1975年、私が初めて海外に出た先は韓国でした。当時、釜山空港は軍用を兼ねており、着陸前にシールドを閉じるようにとの機内アナウンスを聞き、南北に分断された朝鮮半島を肌で感じたことを思い出します。さて、河内長野市国際交

流協会(KIFA)が設立されたのは1992年。各地で国際交流や姉妹都市提携が叫ばれた時代でした。そして21世紀に入ると、異文化よりも多文化という言葉が聞かれるようになり、2019年には、河内長野市国際化・多文化共生ビジョンが策定され、外国人市民も含めた共生社会の創造という目標が掲げられました。韓国では、食事の際に少し残すことで「もう食べられません、満腹です、ごちそうさま」を示すのが礼儀と教わりました。もし、海外で「郷に入っては郷に従え」と強要されたらどうでしょう。訪れた外国人が「郷に入っては郷に従う」意識を持ってなかったらどうで

しょう。文化や慣習の違いを認め譲り合う意識、言い換えれば、相手を尊重する「思いやりの心」を持つことによって、心の国境線ボーダーラインを越え、共に生き、生かされる社会が育つのではないでしょうか。11月には、キックスで「世界の文化ごった煮2022」を計画しています。みなさん、多文化の風に吹かれに来てください。



KIFAのみなさんと(後列中央が山本さん)